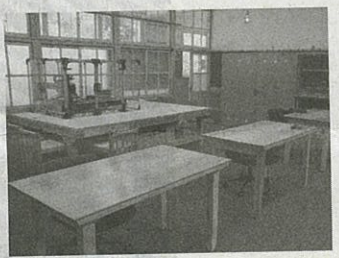
日本経済新聞
6月8日
木曜日

地域課題解決 酒蔵で探る

東大と芝浦工大、佐渡に研究室

東京大学未来ビジョン研究センターと芝浦工業大学地域共創基盤研究センターは、新潟県佐渡市の酒蔵に研究室＝写真＝を開設した。地元とも連携しながら地域の課題解決に取り組んで「持続可能な佐渡」の実現を目指すとともに、確立したモデルを国内外に広めることなどに取り組む。両センターとも学外に研究室を設けるのは初めてという。



研究室は尾畑酒造（佐渡市）が廃校を使って日本酒を醸造している「学校蔵」の施設内に設けた。両大学とも常駐者は置かないものの、研究室を拠点に研究者・学生らがエネルギーや交通といった地域が抱える課題の解決や循環型社会に向けた調査・研究などをする。佐渡の住民ら地域とも連携し、研究室内の設備を使って住民のものづくり技術の向上、人材育成などにも取り組む。

研究室の開所式には東大の福士謙介センター長や芝浦工大の栗島英明センター長のほか、佐渡市の渡辺竜五市長、尾畑酒造の平島健社長、尾畑留美子専務らが出席した。